

3・1ビキニデー集会 代表団報告

ビキニ環礁での水爆被災から70年 核兵器禁止の声を今こそ強めよう！

2月28日から3月1日、ビキニ被災70年の3・1ビキニデー集会在静岡県で開催されました。尾張健康友会からは友の会1名、職員4名の計5名の代表を送り、2月29日には東京ワールドワーク、3月1日にはビキニデー集會に参加しました。ワールドワークでは第五福竜丸展示館、PTSDの日本兵と家族の交流館、横田基地を見学しました。代表団の声を紹介します。

訴えなければ

千秋病院 医局事務課
久保 明日香

戦後は核兵器こそ使用されていませんが、大きな威力や規模で核実験が多数行なわれていることに驚きました。ビキニ被災後の日本政府の対応にも信じられないことが多くあります。アメリカの言いなりになって少しの

お金で解決したことになり、情報を隠蔽したりと、日本の政府は日本国民のために働くべきなのに、何のために存在しているのだろうかという憤りを感じました。

ただ、ビキニ被災から全国多発的に抗議運動が起こったと知り、黙ってあきらめるのではなく立ち上がってくれる人がいるのが本当によかったと思います。



3・1ビキニデー集會で



集會前には久保山愛吉氏の献花墓参行進、墓前祭を行いました

疑問から行動へ

千秋病院 医療サービスク
片野 裕子

被爆した第五福竜丸はその後10年使用され、そのままゴミの中に捨てられていたそうです。もし

発は安全と世間で言われていた頃から、核に対する警告をして一人です。疑問を持ち行動する感覚は忘れてはいけません。ことだと改めて感じました。

100%危険がないと証明することはできません。1960年代、原発は安全と世間で言われていた頃から、核に対する警告をして一人です。疑問を持ち行動する感覚は忘れてはいけません。ことだと改めて感じました。



第五福竜丸展示館



PTSDの日本兵と家族の交流館

背筋を伸ばして

岩倉介護保険サービ
センター・ちあき
岩崎 浩大

第五福竜丸展示館では、職員の方からとても分かりやすく事件の説明をしていただきました。

驚いたのは、杉並で始まったと思い込んでいた原子爆禁止署名運動が食の安全をきっかけに全国で同時多発的に始まったという説明でした。小さな声が集まって大きな運動へと発展したこのような事例を、今を生きている我々も教訓にすべきだと感じました。

肌で感じたこと

本部 社会活動部
中尾 忍

第五福竜丸展示館では、福竜丸のほかにも「死の灰」や、全国で取り組まれた署名用紙の実物も展示されていました。話で聞いていたことを、まさしく「肌で感じる」思いがしました。

PTSDの日本兵と家族の交流館では「アメリカの統計を基にすると、第2次世界大戦でPTSDになった兵士は300万人ほどと予想され、当時の家庭の45軒に1軒は暴力などに苦しんでいた計算になる」と館長の黒井さんか

現地では、当日の朝の

オンライン視聴者の声

3・1ビキニデー集會には、7名がオンライン視聴しました。感想には、「日本やマーシャル諸島など多くの漁船が被害にあい、その多くが救済されず、公開されないままという説明を受けました。戦争の被害は武器によるものだけでなく、他人事ではないと改めて感じました。

ビキニデー集會では、米国代表のジョセフ・ガソンさんが今の若者たちへ「真実を追い求め、情熱をもって活動し、人々の心を感じて、それに答えて行動してください。その中で勇気をもつて行動してほしい」と訴えた言葉が印象に残りました。

今回の集會では、目に見えない人びとの心を感じる大切さと、自分のできることから始めることの大切さ、そして続けることの大切さを学びました。まずは白旗の葉を作りました。

東京ワールドワークに参加して、戦争によるPTSD、水爆実験による放射能被害に対し、家庭や地域でどんなことがあったのかを知ることができた。家族や住民にとっては何が何だかわからず、怖いというだけのおかしな行動に出ている。問題は、正しい情報を示さなかった行政にある。これは、日常の活動や普段の暮らしの中にもある。

ビキニデー集會では、核兵器廃絶に取り組み地域住民の活動や、学生・高校生・若者の活動を知った。これまでは、署名や行進・集會参加が反戦平和活動だと思ってきたが、その前に日常的に取り組まれる多彩でユニークな活動がそれぞれにあることが分かった。原水協の「草の根」平和運動が「地域住民が自発的に取り組む平和活動」であり、大きな組織からの指示や提起で行なうことではないということに再認識した。草の根活動を進めることで地域に根ざし、住民の自主的で自発的な活動につながりたい。

草の根の活動を

北名古屋支部
早川 雅澄

東京ワールドワークに参加して、戦争によるPTSD、水爆実験による放射能被害に対し、家